

もとむら 賢太郎

文部科学委員・内閣委員・倫選特委員



相模総合補給廠返還実現に大きく前進!!

今年(平成23年)2月25日予算委員会分科会 質問

相模総合補給廠一部返還(2^{ヘク}タル+15^{ヘク}タル)

国は、昨年の2^{ヘク}タル部分と同様にもとむら賢太郎議員の国会質問に答えるかたちで初めて15^{ヘク}タル部分の具体的な返還時期を示しました。(現在は2^{ヘク}タル部分の工事が着々と進んでいます。)

在日米陸軍相模総合補給廠は矢部駅から相模原駅を過ぎる区間北側にある214^{ヘク}タルの広大な基地です。この基地により、地域は分断され、毎日数キロも迂回しながら暮らす人々が大勢います。しかも戦前からです。

この基地を国は本気で早期地元返還を実現する気があるのか。担当官庁である防衛省に何度問い合わせても、地元の要望は承知しているが米軍の意向も大事だとして、要領を得ません。

なぜ、返還について目標時期さえ示す事ができないのか。本気で努力して取り組んでいるのなら、「そのうちに。」ではなく、その具体的取り組みを示していくべきではないかと考え質問しました。

【質問 もとむら賢太郎(抜粋)】

相模原市はキャンプ座間、そして相模総合補給廠、相模原住宅と、三つの米軍基地がございまして、その三つの基地、ほとんどが相模原市の中心地である市街地に集中しておりまして、その面積は446^{ヘク}タルと大変大きな基地負担をこれまでしてまいりました。

平成18年5月1日の日米ロードマップを受けて、平成20年6月6日には、日米合同委員会におきまして、在日米軍相模総合補給廠の一部返還(2^{ヘク}タル+15^{ヘク}タル=17^{ヘク}タル)の合意がなされております。まず、この相模総合補給廠に関して、お伺いします。

昨年もこの15^{ヘク}タル部分の家族住宅、保育園、コミュニティー支援センター、倉庫等々がキャンプ座間や相模原住宅に移設をされる、その移設をされることによって返還が見えてくるだろうというお話もいただいていたわけではありますけれども、相模総合補給廠の一部返還(17^{ヘク}タル)のうち15^{ヘク}タルに関して、早期ということですが、市民の強い要望でありまして、日米合同委員会から3年を経ようとしております。昨年は、この2^{ヘク}タル部分の鉄道・道路用地の返還を3年、4年後に、防衛省の皆さんの御努力によって米軍との調整を進めていただけたというお話もいただいておりますが、この15^{ヘク}タル部分の返還についてできましたら、この見通し、時期等々を含めて、もう一度御答弁をお願いしたいと思います。

【答弁 防衛省地方協力局長 井上政府参考人(抜粋)】

お答えします。予算の措置があるわけでございますので、今ここに確約というようなことを申し上げるようなことは困難かというふうに思っておりますけれども、**今の委員のご要望、御意見等踏まえまして、可能であれば、3年、4年程度の中で実現できるように努力をさせていただきますというふうに考えているところであります。**

3度にわたる再質問のすえ、返還時期の答弁を引き出しました。

返還 約2^{ヘク}タル

小田急多摩線及び道路のために使用(延長=900m)

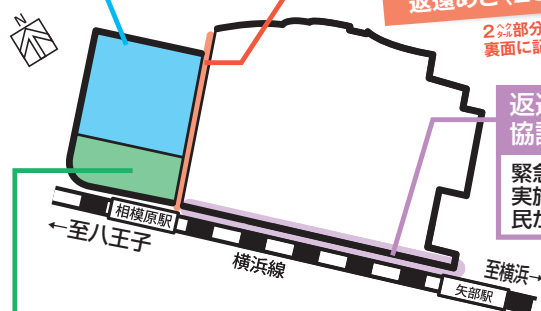
平成22年2月
予算委員会分科会にて質問
返還めど(25~26年度)

2^{ヘク}タル部分については、裏面に記載してあります。

返還に向けて協議中

緊急時及び訓練実施時を除き市民が利用

共同使用 約35^{ヘク}タル
緊急時及び訓練実施時を除き市民が利用



返還 約15^{ヘク}タル

家族住宅は相模原住宅地区に移設

平成23年2月
予算委員会分科会にて質問
返還めど(26~27年度)

平成23年2月26日神奈川県新聞(社会面)転載

「3、4年後目標」

相模総合補給廠の一部返還時期

衆議院予算委員会
分科会 防衛省見通し

米軍再編に伴い、変換に合意した日米陸軍相模総合補給廠(相模原市中央区)の一部土地17^{ヘク}タルのうち、15^{ヘク}タルの返還時期について、防衛省は2月25日(3、4年後を目標とした)との見通しを示した。衆議院予算委員会分科会にて、民主党本村賢太郎衆議院議員(14区)の質問に答えた。防衛省は昨年、17^{ヘク}のうち道路として使用する2^{ヘク}部分の返還時期を3、4年後と説明。一方、15^{ヘク}部分の返還にあたっては、中に建てられている米軍家族住宅や児童保育センターなどの移設が必要となることから時期は示していなかった。本村議員は「住宅移設などを早期に完了させ変換を実現すべき」と指摘し、15^{ヘク}部分の返還時期を示すよう求めた。防衛省は「早期に進めたい」と思っている。確約はできないが可能な場合は3、4年後をめどとした」とした。(佐本 真里)

昨年(平成22年2月25日)予算委員会で質問

昨年(平成22年)の質疑では、その点に食い下がり、何とか平成25年度までに一部返還(鉄道・道路用地約2割)を実現するとの答弁を引き出せました。私が得た答弁ですが、国会での発言は国民との約束であり相模原市民のもので、この答弁が目標ではなく早期返還実現が目標です。本日に約束が履行されていくのか、これからの監視の目を向けていきます。質疑の様子は衆議院のホームページで動画をご覧になれます。

【質問 もとむら賢太郎(抜粋)】

平成18年5月1日の日米ロードマップを受けて、平成20年6月6日には、日米合同委員会で、在日米軍相模総合補給廠の一部返還と共同使用の合意がなされております。これに関して、ロードマップの中の文章から、「相模総合補給廠の一部は、地元の再開発のため(約15%)、また、道路及び地下を通る路線のため(約2%)に変換される。」と記載があります。

返還時期が今、数年後という話で、なかなか先行きが見通せないということですが、2割部分の返還部分、「鉄道・道路用地の返還」という形で示されている部分でございますけれども、ここは財務省からも、在日米軍に係る返還財産の処分条件について、基地の処分相手が都道府県または市町村の場合、道路法第90条第2項によりまして、譲与または無償貸し付けとなっていくことから、15%の部分よりも早期に返還が可能じゃないかなと思っております。

大臣を中心に返還に向けた形で進めてもらっていると思っておりますけれども、この2割部分に関して、いつごろ返還ができるのかというのは、見通しはありますか。

【答弁 防衛省地方協力局長 井上政府参考人(抜粋)】

お答えします。2割の部分でございますけれども、現在、倉庫及びテストトラックの移設工事の関連の作業を進めておるわけでございまして、連絡橋それから境界のさくの調査設計等を行っているところでございます。また、23年度は工事費等の予算も計上させていただきたいというふうに考えておるわけでございます。

そういうことを踏まえて事業を進めて、その上で返還という形になるわけでございまして、今明確にこの年度ということをお願いすることはできませんけれども、3、4年程度の中で努力をさせていただきたいというふうに考えているところでございます。



加山相模原市長と前原外務大臣(当時)に直談判



北澤防衛大臣(当時)に質問する本村賢太郎

新聞各紙にも掲載されました。

米軍再編に伴い日米合意された在日米軍相模総合補給廠(相模原市)の一部土地返還のうち、基地の中央を貫く鉄道および道路用地約2割の返還時期について、防衛省は25日、「3、4年程度の中で努力したい」と明言した。衆議院予算委員会分科会で、民主党の本村賢太郎氏(14区)の質問に答えた。

相模総合補給廠2割返還時期 防衛省「3、4年内」

神奈川新聞 平成22年2月26日 22面より転載

本村氏は「2割部分は自治体に返還され、譲渡または無償で貸し付けられるので、早期の返還が実現できるのではないかと指摘。防衛省の井上源三地方協力局長は「現在、約2割部分とほかの部分に分ける境界線設置のための調査設計を行っている」と進捗よく状況を説明。さらに「2010年度予算案で設計費などを計上しており、11年度は工事費を計上したい。そうした事業を踏まえ返還ということになる」と見通しを述べた。

2月25日の衆議院予算委員会分科会で、米陸軍相模総合補給廠の返還時期について、防衛省が初めて具体的な期日に言及した。神奈川14区選出の本村賢太郎議員の質問に答えた。それによると、返還予定区域の一部、基地の中央部を貫く鉄道・道路用地約2割について、「3、4年程度の中で努力」するとし、平成25年度までの一部返還の実現性が高まった。相模総合補給廠については、米軍再編に伴い、一部返還が日米合意されているが、返還の具体的な時期については明言されてこなかった。

在日米軍相模総合補給廠(しょう) 返還の具体的時期に初めて言及

本村賢太郎議員に防衛省答弁

相模原市は返還合意を受けて、跡地利用も視野に入れた「さがみはら新都心整備構想」も策定。今回返還時期について言及のあった2割について、計画では、JR横浜線を横断する道路整備や小田急多摩線延伸などが予定されている。1月27日には、加山俊夫市長が防衛省に北澤大臣を訪ね、返還の早期実現を求めた。

今回の質問について本村議員は本紙の取材に答え、「この基地の早期返還に国は本気なのか、防衛省に何度問いただしても要領を得ない回答ばかりでした。事前のレクチャーの段階から食い下がり、何とか具体的な日程を引き出すことはできましたが、これが本当に実現されるのか監視の目を光らせていくことが大切だと考えます。」と話している。



タウンニュース相模原版 / No.979 平成22年3月18日(木)より転載

もとむら賢太郎プロフィール

- 相模台幼稚園・市立桜台小・市立相模台中・県立麻溝台高校・青山学院大卒。
- 参議院議員本村和喜秘書、東鉄工業(株)、衆議院議員ふじい裕久秘書、神奈川県議会議員2期。平成21年8月衆議院議員選挙にて、157,644票で初当選。
- 地域活動 相模原自衛官募集相談員・相模原シティライオンズクラブ

◎ご意見・ご要望をお知らせください。

もとむら賢太郎事務所【毎日午前9時～午後6時まで】

■相模原事務所

〒252-0203 神奈川県相模原市中央区東淵野辺4-15-1
相模原総合卸売市場E棟7号
TEL 042(768)9055 FAX 042(768)9066

■国会事務所

〒100-8982 東京都千代田区永田町2-1-2
衆議院第二議員会館305号
TEL 03(3508)7460 FAX 03(3508)3290

■ホームページ <http://dpj-kanagawa14.jp/motomura/> ■メール motomura@dpj-kanagawa14.jp



つなごう
日本の未来